

岩手県二戸市「歩行者の安全確保対策について」 ～車社会から子供達の命を守るために～

地方の実情にあった公共事業を考えるシンポジウム
(H17.11.24 東京虎ノ門パストラル 事例発表より)

岩手県の二戸市で実施しています「歩行者の安全確保対策」について説明します。最初に、岩手県二戸市の位置について説明します。地図ですが、まさかの形をしていてオレンジ色が青森県となっていまして、その南、太平洋側の青の部分が岩手県となっています。二戸市は、岩手県の北部で青森県と接しています。東北新幹線「はやて」で東京から約3時間かかりまして、終点「八戸」の手前の駅です。人口は、二万七千人の市です。二戸市には、温泉もありますし、また、あわやひえなどの雑穀の生産量が多く、雑穀により町おこしをしています。右下の絵は、五穀ラーメンといいまして、盛岡の冷めんと似ており、雑穀を使った麺となっています。そのほかにも、雑穀を使ったお菓子なども提供しています。

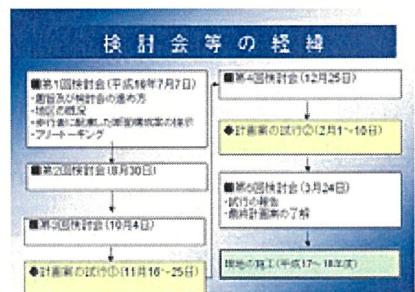
次に対策箇所の概要について、説明します。右の写真のように側溝をいれて7.5mと狭くなっています。旧国道4号で今は県道となっています。交通量が1日約1万台、通学路となっていまして歩行者が700人、自転車が160台利用しています。都市計画区域で商業地域となっています。商店、住居、銀行などが立ち並んでいます。延長800mの区間が特に狭くなっています。今回の対策箇所となっています。

対応として、二戸市、警察、土木部が緊急対策会議を開催し、緊急対策として車線分離標を設置しました。車線分離標は、サイドラインの位置に設置し、緊急に歩行空間を確保しました。その後、平成16年7月に「歩行者等安全対策」検討会を設立しました。検討会の構成員としては、地区的団体として、小中学校のPTA、商工会、町内会、トラック、タクシー、バス会社と、行政側では、二戸市、警察署、振興局で組織しました。

検討会の経緯は、第1回に地区の概況説明、歩行者に配慮した断面構成案を提示し検討を重ねました。検討会で了承された計画案について1回目の現地試行を行いました。第4回検討会では、試行の結果や住民アンケートの結果の報告があり、それを踏まえて、2回目の現地試行を2月1日から10日に行いました。第5回検討会では、2回の現地試行や住民アンケート結果を総合的に検討して最終計画案をまとめることができました。この結果については、平成17年度から18年度で現地の施工をすることとしました。

通常期の現地試行について説明します。まず、センターラインの消去と路肩ラインの引き直しを行ってサイドサインの間の幅を4.5mとしました。これは、歩行空間の確保や車両の走行速度を落とすことを目的に実施しました。ポストコーンの設置は車道側から路肩を意識させるため実施しました。次に、路肩と側溝の部分を歩行空間として緑色に着色しました。この着色によって、歩行者の安心感が得られ、また、路肩への駐車がしにくくなると考えました。30kmの臨時速度規制も実施しました。また、試行区間の前後には、案内看板を設置して通行者にお知らせをしました。自転車の交通量も多いことから、自転車と歩行者がすれ違う時は押して歩くように看板でお知らせしました。

冬期の施行も実施したわけですが、通常期と違う点があります。通学路側の歩行空間を広く確保したこと、歩行空間の着色を橙色としました。それから、冬期なので、より路肩をわかるようにポストコーンの数を増やしています。2回実施しました試行結果について説明します。大きく3つあって、まず、交通量が約千台減っています。



す。これは、バイパスのほうへ交通が流れたと考えています。次に車線の幅がせまくなつたことから最高速度が10km低下しました。それから、平均速度が低下したにもかかわらず大きな渋滞は発生しませんでした。

内 容	アンケート 賛同率	検討会意見 賛同率
① 歩道の着色	65%	継続
② 速度規制(40~30km/h)	60%	継続
③ ポストコーンの設置	50%	継続
④ 車道幅員の狭小化	25%	継続
⑤ 車道のスラローム化	20%	直線化
⑥ センターライン消去	20%	継続

次にアンケート結果について説明します。アンケートは、商店、住民、運転者、小中学生を対象に、549名から回答を得ています。現地試行の賛同率は約5割となっております。

理由ですが、多少不便になったが、歩行者の安全確保のためやむを得ない、試行により安全性が高まった、小中学生は、試行はいつもより安全と回答しています。その反面、試行について反対という方が20%で、その理由は、車道が狭く蛇行していて我慢できないという回答がありました。また、営業環境について変化無しが80%、逆に悪くなったと答えた方が20%ありました。歩行者の安全確保のため除雪を協力しても良いとする回答が80%ありました。歩行空間の着色については、緑色20%橙色35%の賛同率となっています。

表の歩道の着色、速度規制、ポストコーンの設置については、半数以上の賛同率となっています。逆に、車道幅員の狭小化、車道のスラローム化、センタークーンの消去については、20%台の賛同率となっています。

番号	項目	総括(検討会意見)
①	歩行空間の着色	・オレンジ色の着色を実施 ・通学路側を広げることとした ・サイドラインと着色との間隔は1.2mとした ・車両運転員からの位置にサイドラインを引く
②	歩行空間拡幅	
③	センタークーン消去	・「3D」の表示は、歩行空間を見わたが迷惑、迷惑であると感じたので消去することとした ・スクロール式がない
④	制限速度30km/h	・アーバン特需C2、町内乗車歩行 ・経済効率、技術的効率を考慮する
⑤	カラーポール設置	・歩行者の安全確保に入りでは、歩行者に協調 ・運転者に協調となる

次に総括として第5回検討会を実施し、現地試行やアンケート結果を検討して表のように決定しました。歩行空間の着色は、アンケート賛同率の高かった橙色として、通学路側を広げることとしました。歩行空間の拡幅のため車道幅員4.5mの位置にサイドラインを引くこととしました。センタークーン消去については、反対意見が見られましたが、速度の低減効果を重視し、実施することとしました。制限速度30kmは、反対意見が少数でしたので実施することとしました。カラーポールの設置については、商店などと協議し、荷さばきなどの支障となる位置に設置することとし、地域で開催する祭りなどを考慮し着脱構造とすることとしました。

第5回検討会で決定した計画図についてですが、従来は5.5mの位置にサイドラインがありました。この位置にはポストコーンを設置します。サイドラインは、車線4.5mの位置に引くこととしていますので、大型車両のすれ違い時には、サイドラインをまたぐこととなります。

現地の施工は、11月から実施していますので残念ながら完成写真をお見せすることができません。完成予想図ですが、バス停は路肩を広くし、歩行空間を狭くしています。実施スケジュールですが、現地の施工は、平成18年度までとなっています。30kmの速度規制は平成18年1月から実施予定、住民協同による除雪体制についても今年度から実施することとしています。実施延長は800mで事業費が7千5百万円となっています。

最後に感想ですが、商店については、荷捌きの不便さや交通量の減少に伴う来客者の減少などが考えられますし、運送業者は、狭い車道の利用、運行速度の減など、業務上不利となるなかで、子供たちの命をまもるため安全対策をまとめることができました。これは、地域の方々の熱意が結集された結果と考えています。

(道路環境課 菊池主査)